

## 第 56 回 BS12 トゥエルビ放送番組審議会 議事概要

- 開催日時 2023 年 4 月 27 日(木) 12:00~14:10
- 開催場所 ワールド・ハイビジョン・チャンネル株式会社 会議室
- 委員：総数 8 名  
出席（6 名）
  - 委員長：石田 寛人（金沢学院大学 名誉学長）
  - 副委員長：勝島 敏明（公認会計士・税理士）
  - 委員：菅谷 実（慶應義塾大学 名誉教授）
  - 委員：坂田 康太郎（株式会社 CAP 代表取締役社長／音楽プロデューサー）
  - 委員：臼田 誠次郎（元日本工営<sup>(株)</sup>代表取締役副社長）
  - 委員：小林 千寿（日本棋院 棋士）

※欠席の山下東子委員、伊藤佳子委員から書面によるコメントの提出があったので、委員のコメントの中にそれを含めた。
- 放送事業者側出席者
  - 代表取締役社長：須磨 直樹
  - 編成・プロモーション本部長：清水 友明
  - 編成部長：生駒 裕之
  - プロデューサー：高橋 良美
  - 管理本部長：園田 誠
  - リスクマネジメント部長：西村 和晃
  - 経営企画室長：古賀 宗仁
  - 事務局：尾上 一也
- 議事概要  
**代表取締役社長挨拶（事業概要説明）**

### 事務連絡

審議に入る前に、委員数の変更につき事務局より説明した。また、当社の人事異動による出席者の紹介を行った。

### **議題 1 諮問事項「衛星放送協会放送基準」一部改定に伴う当社放送基準の改定について**

一般社団法人衛星放送協会（以下、衛放協）の放送基準が一部改正されることに伴い、同基準を準用している当社の「番組の編集の基準」を改定することにつき、資料を基に内容を説明。放送法に基づき放送番組審議会に諮問した。

放送番組審議会は改正内容に異議はないし、改正は妥当であると答申した。

### **議題 2 番組種別分類結果公表について**

2022年10月～2023年3月の第3月曜日を起点とする各1週間（計42日）に放送した、番組の種別の分類と、種別ごとの放送時間の合計、並びに個々の番組の種別分類結果を書面にて報告し、結果公表につき了承された。

### **議題 3 2023年4月以降の番組編成内容について**

「プログラムガイド（2023年4・5・6月）」、及び番組プロモーション映像に基づき、2023年4月以降の番組編成内容について、清水編成・プロモーション本部長より説明があった。これに対して、委員から質問とコメントが出された。質問に対しては、事業者側が回答し、コメントについては、適宜、今後の番組編成に活かしていくこととした。

### **議題 4 審議番組**

「BS12スペシャル『人生最終章に花道を～横須賀・町医者が見つめる生と死と、日々～』」について

審議番組について、ダイジェスト版を視聴後、合評を行った。

委員からの主なコメントは次の通りである。

- ・ ナレーションの小泉孝太郎さんが、明る過ぎず暗過ぎず番組を通して良い加減で聞きやすかった。重いテーマでありながら、暗過ぎることも無く、生がある以上死があると言うことを自然の事として受け入れるスタンスがスッとはいってくる内容だった。これから高齢化が進む中で人生の最終章をいかに生きるか、また誰にどのように支えてもらえるのか、は非常に興味深いテーマである。継続的に特集をしてもらいたいと感じた。
- ・ 医師の仕事ぶりを通じて、死にゆく人や生きる気力を失った人・その家族と医療関係者との関係性を明らかにした、良質のドキュメンタリー番組だと思う。最期を迎えようとする親に対する正直な思いが伝わった。兄弟の発言から二人の見解が違うことも、看護師である長男の妻の毅然とした態度も、このような場面にいざれ遭遇する人々にとって参考になるものであった。生前と死後の両方がカメラに収まったわけだが、これもなかなか珍しいことで、良く撮影許可してくれたものだと思う。多くのキャストの取材協力が得られたのは患者さんの信頼感と番組制作者のご努力の両方があったからだと思う。
- ・ 先生の献身的で患者だけでなく家族に寄り添う真摯な姿勢に感銘した。高齢者医療というより、高齢化社会、老々介護、孤独死も含め、いろいろ考えさせられるとても良い番

組であったと思う。また、日本平均より高齢化が進む横須賀を取り上げることで、来る次世代の問題として、我がことのように向き合う事が出来た。「お金、モノ、人が必要」、また、「死の落しどころ」という先生の言葉が強く心に残った。

- ・ 先生は理想形であって、日本全国でこのような取り組みが出来るわけはないので、現実はどの様な最期が多いのか、延命処置は本人の意志か、家族の意志か、認知症との向き合い方、孤独死の現状など、光と影にも触れると現実味が増したと思う。
- ・ 横須賀の都市部でこのような医療方法があるということが印象に残った。症状が悪化する中で病院に行くか留まるかという選択するシーンがあったが、通常であれば生命維持を図る行動が多いと思うが、先生は家族が判断するための情報を提供され、判断されているところは素晴らしいと思う。
- ・ 患者家族を含め良く取材されたことに驚いている。個人的には全く同じ経験をしている。最後の時を家族が同じ思いで迎えられるのであれば幸せである。日本も以前は往診してくれる医師がいたが、訪問診療をされる医師が減ったのではないか。身近な医師が近くにいることは心強いと感じる。
- ・ この番組で取り上げた問題は誰もが関心があり、なかなかこのように密着取材をしてドキュメンタリーを作り上げることは大変な作業であったと思う。ナレーションの小泉孝太郎さんをもっと前に出すような作り方が良かったのではないか。
- ・ このようなお医者さんが日本にまだいらっしゃるんだというのが第一印象である。偉ぶることもなく、患者やその家族にとけこんで、的確なアドバイスができる、訪問診療という難しいこと自然に行っていることに感銘を受けた。この番組の続編や他視点の番組を期待する。
- ・ 「落としどころ」や「選択」という言葉が番組中に出てくるが、人間にとっては厳しい言葉であり、医者はどんな命でも1分1秒長く持たせるというのが使命として活動されている。現実には人間の終末を迎えたときに、家族も、あるいは社会も何らか決断せざるを得ないということをこの番組を通じて、特に患者さんの生きておられたときと死後の状況からアピールできたことは素晴らしいと思う。

## 議題5 その他

放送倫理・番組向上機構（略称：BPO）に寄せられた、当社が放送した個別の番組に対する視聴者意見について事務局より内容を説明し、放送番組審議会は本報告を了承した。

以上